働く女性を取り巻く環境について

Thoughts on Female Employees and Work Environment

陳 淑 茹^{※1}

Shu-Ju CHEN

近年は、女性意識の台頭および世界各地で活躍する優秀な女性のことが多くの人々の間でよく知られるようになったお蔭で、各分野における人材育成を担う人達にも、性別を問わず能力のある人材を育てようという意識が次第に向上した。その結果、理工系大学に進学する女子学生の数が増加してきた。本稿は、将来、彼女達が如何に家庭と仕事のバランスを取って両方とも上手くやっていけるのか、そして、その両立を図りながら仕事を続けられるのかに着目して考えるものである。

まず、昔と今の働いている女性の違いを考える。今は、昔と違って、多くの国の女性が職場で仕事をバリバリやるのはもう普通になっている。もちろん、最近の日本でも例外ではなくそのような傾向が見られる。そして、女性が活躍する分野も昔より格段に広がった。一般的に、昔の女性は就職しても事務職に就く場合が多く、専門職では分野が狭く、小中学校の教員、もしくは看護師などが多かった。そのことは、時間的に家族全員の世話がし易いと考えても良い。しかし、今日では、さまざまな専門職で活躍する女性の姿を数多く見るようになった。そのうち、技術や設計など創造力を重んじるエンジニアの世界、言い換えれば、昔は男性が独占した専門職世界にも女性の姿が多くなった。

これで、約20年前に女性団体が提唱した男女雇用平等という概念がほぼ定着したと思われるが、実際は働く女性が直面しなければならない課題はまだ山積している。具体的には、例えば職場の男性同僚や上司から如何に高い評価を得るから家庭内のいろいろな対応など多岐に亘っている。キャリアウーマン、特に男性の比率が極めて高い技術者の世界で活躍している女性達にとっては、厳しい現状であるものの、決して解決できない課題ではないと思う。

以下の二点は筆者自身が今まで見てきたことを参考に、現状を改善する例を示した意見である。読者がその点について共感して頂ければ、幸いと思う。

1. 現役のキャリアウーマンを範例とするサポートを

自分は文系出身で、工業大学で語学科目を担当している。筆者の経験から、女子学生の多いクラスほど、クラスに活気を感じる。それは、語学の研究結果からも当然のことである。彼女達は技術者になりたいという夢を持って、この大学に入学したはずである。そのために、彼女達は将来卒業したらきっと立派な技術者になれると私はそう信じている。自分は技術者でもないし理工系科目も担当していないけれど、働く女性先

輩として如何に自分の専門やその能力を活かし社会貢献できるかを彼女達に良い例として示したいという気持ちを常に持っている。これは、彼女達に自立する意識を涵養させ、そしてその大切さを思わせるのが目的である。

このような良い事例があるために各企業は積極的に女性正社員を雇う必要があると考える。技術職を例とすると、女性を雇うメリットは、まず男性との視線が違うために、協力すればより良い技術を開発できる可能性がある。そのためには、女性が各企業・組織で安心して仕事に打ち込める職場環境を整備して、子育てサポートなどをしっかり実行すべきだと思う。このように、先輩達がイキイキして家庭と仕事を両立している姿を見ると自分も出来る、そして、頑張るという自信が芽生えてくる。

2. 共働きの実行ー日常生活から実践を

働く女性の数が増えても、家庭に入った後、仕事も順調にやっていけるのか、その不安が多く女性に共通した課題である。家庭を持つ友達を見ると、やはり彼女達は自分の努力だけでなく、家族による支えが大きく影響している。

母国の台湾では、保育施設は充実しており、昼間、子供を保育園に預けて両親は働くのが現状である。そのため、育児と家事はもちろん、二人で分担するが、今まで台湾で働く女性の友達から子育てに疲れたという話を聞いたことがない。

もう一つの例は、アメリカにいた時、ルームメイトのアメリカ人女性が男性教授の子息のベビーシッターをしていた。彼女に聞いてみると、教授の奥さんは会社勤めしているため、教授の方が学生のベビーシッターを探すのが簡単であり、何があった場合もすぐ来れるから好都合であったそうである。このようなことは、アメリカの大学では普通のことのようにである。父親、母親の関係なく、時間的に余裕のある方が子供の世話をすることはキャリアウーマンの母親達にとって、大変助かることである。日本でも2010年4月に2人目の女性宇宙飛行士が誕生した。その飛行士である山崎直子氏はご主人による支えがないと、彼女の夢は叶えられなかったと思われる。

以上の例を通して考えみると、やはり子供の頃からの家庭教育は大切である。家事分担の概念を養成するためには、子供にも他の家族と同様に家事を手伝わせればよいと思う。そして、子供は両親が頑張る背中を見ると将来自分の結婚の相手へ対する思いやりの表現や行動が身に付くと思う。そうなれば近い将来は、仕事を続けたい女性は誰もが無理なく家庭と仕事をきちんと両立できる時代が来ると確信する。

平成 23 年 1 月 28 日受付

※1 初級教育士（工学・技術）

金沢工業大学